

会 議 結 果

会議名	平成27年度 第2回西尾市地域公共交通活性化協議会
日時	平成28年1月14日(木) 午前10時～午後0時
場所	西尾市役所 41会議室
出席者	西尾市地域公共交通活性化協議会委員18名 事務局3名 (欠席:加藤博和委員、古田寛委員、中村行男委員、古田靖雄委員)
傍聴者	7名
議 事	下記のとおり
<p>1 開 会</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) 名鉄西尾・蒲郡線(西尾駅～蒲郡駅)の存続について(報告事項)</p> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1により説明。 ・平成27年10月29日開催の名鉄西尾・蒲郡線対策協議会にて承認された議案の写しを資料とし、西尾市及び蒲郡市と名古屋鉄道株式会社の間でなされた名鉄西尾・蒲郡線存続に向けた支援に関する基本合意の内容を説明する。 ・これまで3年間であった支援期間については、学生の進路選択の際の不安を解消するため2年の延長を要望し5年間となった。 ・支援金額については現行と同様に各年2億5000万円とし、このうち西尾市の負担分は1億5068万7000円である。 ・両市の12月市議会定例会において、5年間の支援に係る債務負担行為が可決されており、3月下旬の確認書締結に向けた協議を経た後に4月から引き続きの運行となる。 <p>○委 員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒲郡の老人クラブ連合会と連携して沿線ウォーキング等を開催しており、その際の運賃は市の団体利用補助を活用しているが、運賃補助事業の予算規模はどれくらいか。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度の当初予算では380万円を計上しているが、多くの方にご利用いただいているため増額補正を予定している。平成28年度については440万円を計上している。 <p>○委 員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年間の存続ということだが、合意にあたり利用に係る条件等が設定されているのか伺いたい。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳細については、3月に名鉄西尾・蒲郡線対策協議会総会を開催し、存続に係る確認書締結に向けた協議の中で決定していく。基本合意に至るまでの話の中で、名鉄としては、期間を2年延長する以上は今の利用者客数から減らさないようにという意向は聞いている。 <p>(2) 地区公共交通協議会の進行状況について(報告事項)</p> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2により平成27年度の状況について説明。 	

○委員

- ・まち・ひと・しごと創生総合戦略の調査で、西尾市に住みたくない理由の第一位が「交通が不便」となっており、このまま放置しているとどんどん人口が減っていってしまう。交通不便を解消していけば、人口も増えていくと思うので何とか改善を進めていきたい。
- ・東部地区ではくるりんバスの路線について検討を行っているが、公共交通機関が全く通っていない非常に不便な地域があり、無の里やいきものふれあいの里等の公共の場所にも接続していない。そういったところに目を向けてもらうために東部地区での協議を行っており、できるものから早く実施してもらいたい。

○委員

- ・一色地区では空白地の解消や交通弱者の移動手段の確保のためにくるりんバスの検討を行っており、制約もあるため全ての条件を満たすことはできないが、くるりんバスや路線バスとの接続を考慮しながら交通空白地の方が移動できるようにルートの協議を行っている。
- ・鉄道のない地域でもあるので、活性化という意味も含めて何とかできるだけ早く導入してもらいたい。

(3) 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について（協議事項）

○事務局

- ・資料3により説明。

○委員

- ・4ページの目標値について、「日常生活で移動に不便を感じている市民の割合」とは公共交通での移動なのか、自動車等も含めた移動なのか。

○事務局

- ・総合計画策定時の意識調査の数値で、自動車等での移動も含めて不便を感じているかという項目である。

○委員

- ・佐久島に対してクラインガルテン等も含めるとかなりの金額を投資している。生活交通、観光交通である渡船についても貴重な税金を使っているが渡航者が増えていないように思う。有効な投資となるよう考えてもらいたい。

○事務局

- ・渡船についてはこれまで赤字事業であったが、アート等の特徴的な取組みにより観光客が増加し、現在は若干の黒字となっている。

◎協議事項（3）について全会一致で承認

(4) 地域公共交通網形成計画の策定について（協議事項）

○事務局

- ・資料4により説明。

○委員

- ・市民等へのアンケート調査について、今回のスケジュールだと新たな調査を行わず前回の調査結果を活用するかどうかと思うが、前回の調査はどの時点で実施したものか。

○事務局

- ・連携計画を策定した平成25年度に実施したものである。

○委員

- ・公共交通の活性化には観光行政が必要不可欠であり、地域の人達の熱意がなければ活性化はできないと思っている。今後の観光との連携という観点で、西尾市の観光協会が法人化されるが、この協議会への観光協会の参加ということは考えているか。

○事務局

- ・これまでは生活に必要な最低限の移動手段の確保ということで進めてきたが、今後は鉄道を中心に県内外からの観光客の誘客ということが必要だと考えているため、参加いただけるよう検討したい。

◎協議事項（4）について全会一致で承認。

（5）タクシー運賃の変更について（報告事項）

○事務局

- ・資料5に基づき委員よりご説明いただく。

○委員

- ・平成19年以来運賃改定がなされず、その間の輸送量の減少や車両価格の高騰等により厳しい経営環境となっていたため、運賃改定を申請させていただき1月21日から新運賃での運行を開始することとなった。
- ・変更の概要としては、初乗運賃について距離の短縮及び金額の値下げを行い、近距離利用のお客様がより利用しやすいようにした。また、「中型車・小型車」という分類を「普通車」に統合した。
- ・新たに運転免許証返納割引を開始し、70歳以上の自主返納者を1割引とする。

3 その他

○事務局

- ・六万石くるりんバスの西廻り線において、交通渋滞等により大幅な遅れが度々発生している。安定した公共交通サービスを提供できるよう、関係事業者との調整を踏まえて改善策の検討を行い、具体案ができた際に本協議会に諮らせていただくのでご承知いただきたい。

4 意見交換

○委員

- ・昨年9月にくるりんバス車内で転倒事故が発生しお騒がせしてしまった。この場を借りてお詫びさせていただきたい。その後は安全確認の徹底を再度指導している。
- ・事務局からも話があったが、現況は全体的に渋滞等により厳しいダイヤとなっている。見直しを行う際にはご理解をいただきたい。また、新しい路線という話もあったが、事業者としては車両の用意等も含めてぜひ協力させていただきたいと思っている。

○委員

- ・先ほど話があったが、タクシーの運賃改定を行い運転免許返納割引を開始することとなった。また、市の高齢者タクシー事業も行っており、利用者も含めてタクシーを公共交通へ位置づけていくことが必要である。

- ・いこまいかーの目的地拡大の話もあったが、形はタクシーであるものの、性質としてはあくまでバスであるためそのことをご理解いただきたい。
- ・路線バスについては、通学の人数の影響により利用者が若干減っているが、重要な路線として運行させていただいているため引き続きよろしくお願ひしたい。

○委 員

- ・ふれんどバスについては、主に学生に利用していただいているが、昼間帯はやはりお年寄りの方が中心であり、いかに利用を増やしていくかということで現在バス停周辺の沿線施設マップを検討している。
- ・バス事業全体としては定期券を中心に堅調に利用が推移しており、少子高齢化で利用が減っていくと言われていた状況から一息ついた感じである。自動車産業の好調やマイカー離れにより若い層の利用が増えるなど、これまでの移動習慣に変化が見られており、公共交通を利用していただけるようなPRを考えていきたい。

○委 員

- ・碧南市では無料のくるくるバスを走らせており、現在は当社で運行を受託しているが、それ以前はくるくるバスによってタクシーの利用者が減った。西尾市でもくるりんバスの運行は望ましいことではあるが、タクシー事業者と共存できるような仕組みをお願ひしたい。

○委 員

- ・日本全国の課題である公共交通について、住民の方、事業者の方を含めた活発な議論がなされており、素晴らしいことである。

○委 員

- ・愛知県の交通死亡事故は高齢者の被害が多くなっているが、西尾市内では県平均を上回る件数が発生している。高齢者対策として、公共交通を活性化し何とか交通事故を減らしてほしい。高齢者等にアンケートを行い、公共交通のない地域の方が移動できるように進めてもらいたい。

○委 員

- ・様々な地域で交通の会議に出席しているが、公共交通の果たす役割は各地域によって違う。鉄道、バス、タクシーをいかにうまく利用するかは地域の方で考えてもらうことが大切。西尾市では毎回地域の方から活発な意見が出ているので、今後もしっかりと議論してもらいたい。

○委 員

- ・今後新しい路線を考えるとということだが、先ほどのダイヤの問題や、安全なルート等をしっかりと検討し、申請をしてもらいたい。

○委 員

- ・子ども達も社会的弱者であり、お年寄りと同じように交通事故に遭う可能性が高い。移動手段は保護者の送迎が中心となるため、小学生等のニーズは把握しづらいが、アンケートやこの会議等を活用し、どのような課題があるのか等を明確にできるように協力していきたい。

○委 員

- ・地域交通安全推進委員をやらせてもらっており、通行するバスを長年見ているが、このところ利用者が増えてきたと感じており喜ばしいことである。

○委員

- ・自分の地区は西幡豆駅が近く名鉄の利用が多いが、駅から遠い地域では1軒の家に車が4、5台ある家が多く、今後車が運転できなくなった時に鉄道以外の公共交通が必要となってくる。地区の皆さんに関心を持ってもらえるよう機会を見つけて話をしていきたい。

○委員

- ・自分自身はまだ車を運転できるため、今日も電車で来たほうがいいのかと思ったが、自宅から最寄駅まで歩くと20分ほどかかる。高齢者となった時に移動できるよう公共交通が必要となるため、地元で知恵を出し合っていきたい。

○委員

- ・吉良地区でいこまいかーのチラシの配布を行い利用者がかなり増えているが、自分の地区でも利用する方が出てきた。今後一色地区でくるりんバスが通ったとしても、バス停まで行くのに距離がある地区がかなりあるため、いこまいかーの需要はあると思う。パンフレット等により利用促進を図っていくことが必要だと感じた。

○委員

- ・西尾が大好きだが、交通だけが難点。車がないと生きていけない状況を少しでも変えなければならぬ。くるりんバスは1時間に1便ということだが、東の隅々まで行こうとすると時間的に無理があるため、1時間の原則は本当に必要なのかと思っている。

○委員

- ・長年この会議に出席しているが、交通は本当に難しい問題で自分の中での答えが中々出ない。いこまいかーの一人利用が依然として多いとのことだが、女性の立場から言うと、個人での移動よりもご近所に声をかけて4、5人でお出かけするようになれば、いこまいかーやタクシーの利用が多くなるのではないか。公共交通機関を上手に乗り継いでいければ生活が便利になるのではと感じた。

○委員

- ・一色地区などでは地域の方が自ら活発に活動されており、そういうところにはどんどんお金を出しても構わないと思っている。そのような地域を見本とし、どんどん手が挙がるようになってくればよいと思う。

○委員

- ・市民が不便に感じている項目では「交通」が真っ先に挙がり、市としても最重要課題の一つだと認識している。地区公共交通協議会や市民協働ガイド等の制度を活用して市民の皆様のご意見を伺いながら、この会議にお諮りしてよりよい地域公共交通を作り上げていきたい

○事務局

- ・次回会議は3月23日（水）午前10時から開催する。

5 閉 会

以上